

0 中央図書館 1 文学図書室 2 教育発達科学図書室 3 法学図書室

4 アジア法資料室(法学図書室分室) 5 経済学図書室

6 国際経済政策研究センター情報資料室 7 情報・言語合同図書室

8 国際開発図書室 9 理学図書室 10 工学中央図書室 11 化学・生物図書室

12 電気・情報図書室 13 機械・航空宇宙図書室 14 土木図書室

15 生命農学図書室 16 宇宙地球環境研究所第一図書室, 未来材料・システム研究所

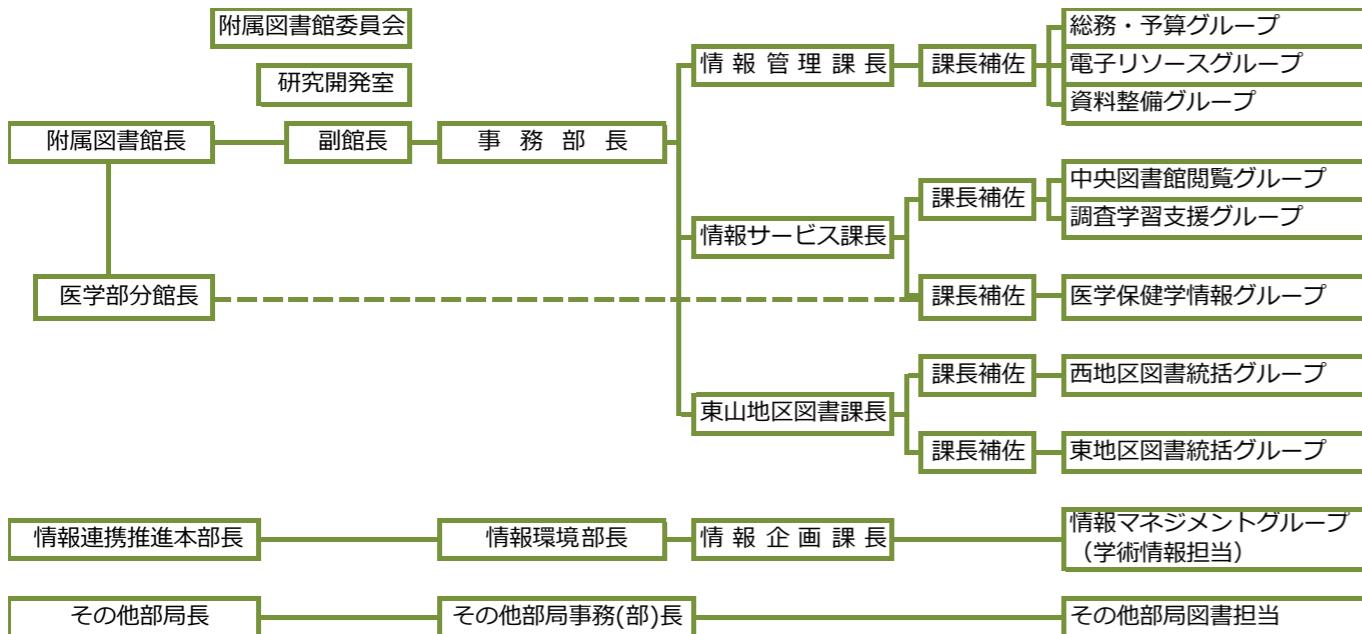
17 宇宙地球環境研究所第二図書室 18 情報基盤センター図書室

19 総合保健体育科学センター図書室 20 国際機構図書室 21 創薬科学図書室

22 ジェンダー・リサーチ・ライブラリ



附属図書館の運営及び事務組織



名古屋大学附属図書館概要

2025



東海国立大学機構における図書館の在り方についてグランドデザインを策定しこれに基づいた活動を行っています。

東海国立大学機構 図書館グランドデザイン2021

世界屈指の教育・研究を支える糧となる

■機構図書館のミッション

デジタルの進展によって情報があふれる世界において、人と情報を結ぶ図書館の役割はより重要な位置にあります。世界中のどこからでも、いつでも、教育研究に必要な資料やサービスが利用できるデジタルライブラリー機能と、創造的学習を支援するフィジカルな図書館機能を充実させ、世界で活躍する人材の育成に貢献するとともに、地域特有の文化・歴史を広く世界に向けて発信し、教育研究の振興に貢献する。

■学修・教育支援■

人と情報を結び、学びのパートナーとなる図書館

- 学修・教育に関する相談窓口の強化、顔の見える専門職員チームによるサポート
- 教員のパートナーとなり授業に沿った調査支援・情報リテラシー教育実施
- 電子書籍等、リモート学習教材の充実
- withコロナのアクティブラーニングスペース再構築、Libラボ設置により学生の創造的能力を引き出す学習環境を提供
- アカデミックセントラルを通じて両大学の共通教育に貢献
- オンライン授業コンテンツのアーカイブ支援

オープンサイエンスを推進する図書館

- 研究成果の管理・共有に関する相談窓口の強化、顔の見える専門職員チームによるサポート
- 研究データの管理・共有、研究成果の公開・社会に向けたアピールを推進
- 貴重資料をデジタル化し、ジャパンサーチ連携により世界に向けて発信
- 機構プラットフォーム様のミッションに貢献
- 関連部署、各分野の教員とデータフォーマット管理のガイドラインを作成し、研究ノートの一元管理を支援
- 電子ジャーナル等研究に必要な資料へのアクセス確保、機構契約によるメリット

地域に根ざした知的・文化的な施設としての図書館

- 岐阜大学のアーカイブコアの博物史料、名古屋大学の貴重資料の活用

■蔵書構築/図書館運営■

大学の学術基盤を整え、機構内外から頼りになる存在として成長し続ける図書館

- デジタル時代のRight-Scalingな蔵書構築
- 基本業務（選書・収集・管理、全国共同データベースへの登録・整理、提供（貸出/返却）、レファレンス（こんなことを調べたい等の疑問に資料や探し方を紹介）、ILL（海外を含む他大学との資料の貸借等）、リテラシー教育（情報の正しい探索、分析・評価、発信スキル向上）講習会の企画・実施等）の業務効率化を図るとともに、これら業務経験の複合的積み上げにより深化する専門性を活かして新たなサービスを展開

人材育成

岐阜大学・名古屋大学の職員が一体となった専門職集団としてこれらの取り組みを支え、さらなる専門性向上に努めることにより世界に冠たる東海国立大学機構の学術基盤を支え教育研究の振興に貢献

ラーニング・コモンズ

中央図書館ラーニング・コモンズは、自律的な学習を支援し、知識の創造を促す図書館の新しい学習空間です。以下のような学習環境を学生みなさんに提供することを目指しています。

- 図書館の学術情報基盤をもとにして、協同学習、ITを活用した学習が行える総合的な学習環境
- 情報リテラシー能力の育成及び学習を効果的に行えるサポートサービス
- 学習及び学生生活に関する各種情報の提供



<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/lc/>

沿革

1939年	4月	名古屋大学帝国大学(医・理工2学部)創設 医学部構内(昭和区鶴舞町)に附属図書館開設、各学部に図書分室設置
1942年	4月	理工学部が工学部と理学部に分離、両学部に図書分室設置、東山キャンパスへ移転
1945年		空襲により図書館資料の一部焼失
1946年	3月	環境医学研究所附置に伴い図書館設置
1947年	10月	名古屋大学附属図書館に改称
1948年	9月	文学部及び法経学部設置に伴い両学部に図書分室設置
1948年	10月	附属図書館が昭和区鶴舞町から中区南外堀町へ移転
1950年	4月	法経学部の分離に伴い法学部図書室、経済学部に図書分室設置
1952年	4月	瑞穂分校及び豊川分校統合による教養部(瑞穂区瑞穂町)設置に伴い図書分室設置
1952年	9月	農学部設置(安城市新田町)に伴い図書分室設置
1960年	8月	文・理の2学部を除く各学部に図書掛設置
1964年	12月	東山キャンパスに古川図書館(中央図書館)開館
1966年	4月	農学部(図書室)東山地区へ移転
1970年	10月	附属図書館報『館燈』創刊
1973年	3月	鶴舞キャンパスに医学部分館設置
1981年	9月	新中央図書館開館
1994年	10月	中央図書館増築工事竣工
2001年	4月	附属図書館研究開発室設置
2006年	2月	名古屋大学学術機関リポジトリNAGOYA Repository公開
2009年	12月	中央図書館にラーニング・コモンズ設置
2010年	5月	中央図書館にコーヒーショップ開店
2010年	7月	理学部の全学科図書室を統合し理学図書室開室
2011年	6月	工学部中央図書室がES総合館に移転開室
2012年	6月	金沢、静岡、名古屋大学附属図書館による「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」締結
2014年	3月	中央図書館老朽対策等基盤整備事業竣工
2015年	3月	医学部分館(鶴舞・大幸キャンパス)改修事業竣工
2016年	4月	名古屋大学オーブンアクセスポリシー制定
2017年	3月	アイソトープ総合センター図書室廃止
2017年	4月	附属図書館支援事業(特定基金)設置
2017年	10月	附属図書館事務部組織の再編
2017年	11月	ジェンダー・リサーチ・ライブラリ開館
2018年	7月	ピブリオサロンをOKB高木家文書資料館へ改称
2019年	7月	高木家文書が国の重要文化財に指定される
2020年	4月	東海国立大学機構が発足 附属図書館は運営支援組織へ改組
2021年	7月	中央図書館にメイカースペース設置
2022年	6月	環境医学研究所図書室廃止
2023年	9月	中央図書館ネーミングライツ事業を開始

学術情報のデジタル化・情報発信

附属図書館が所蔵する高木家文書、伊藤圭介文庫、和漢古典籍の電子化により、普段接することのできない貴重資料を「東海国立大学機構学術デジタルアーカイブ」にて公開しています。



<https://da.adm.thers.ac.jp>

また、NAGOYA Repository(名古屋大学学術機関リポジトリ)を構築し、学術論文や学位論文など学内で生産された学術情報の発信を行っています。

<https://nagoya.repo.nii.ac.jp/>

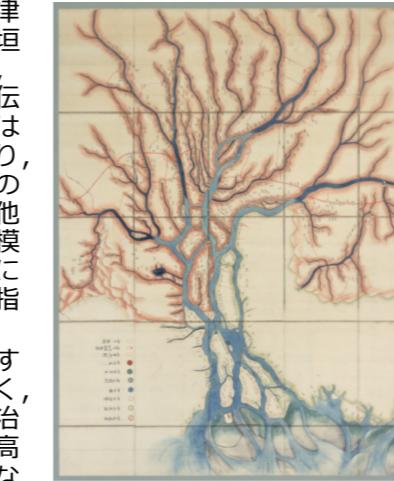
おもなコレクション

高木家文書

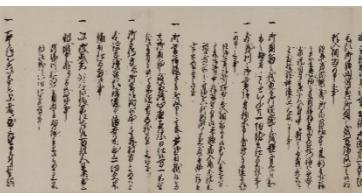
高木家文書は、美濃国石津郡時・多良両郷(現・岐阜県大垣市上石津町域)を本拠とする、旧旗本交代寄合・西高木家に伝来した古文書群です。総数は10万点に及ぶとみられており、幕府瓦解とともにほとんどの旗本資料が散逸したなか、他に例をみない、傑出した規模と内容を有し、2019年7月には一部が国の重要文化財に指定されました。

旗本領主制の研究に寄与する旗本文書であるだけでなく、国内最大級の系統的河川・治水史料でもあることから、高い評価と注目を集め、様々な分野で活用されてきました。

現在までに5万2,000点余が目録化されており、附属図書館研究開発室では、残る書状類の整理を進め高木家文書の全体像の解明に取り組むとともに、損傷・劣化が進んだ文書の修復と保存環境の改善、利用環境の向上に努めています。



木曾三川流域大絵図
19世紀前半の木曾三川流域の全体像を描いた大絵図



宝暦4(1754)年2月15日付 起請文

伊藤圭介文庫

日本における近代植物学の祖といわれる伊藤圭介の稿本(手書き本)188冊を集めたもので、その中には、『錦窠植物図説』、『錦窠魚譜』、『錦窠蟲譜』などの図譜のほか、『採草叢初』などがあります。



『錦窠植物図説』より

水田文庫

アダム・スミスの世界的研究者である故水田洋名古屋大学名誉教授および夫人の水田珠枝名古屋経済大学名誉教授の旧蔵書で、近代西欧思想史関係原典、ジェンダー関係著作等約8,600点のコレクションです。



水田文庫の一部

数字で見る附属図書館(2024年度)

蔵書数

	和 書	洋 書	合 計	所蔵雑誌種類数
中央図書館	716,930	516,888	1,233,818	17,867
医学部分館	110,348	80,210	190,558	5,857
部局図書室	1,048,541	925,663	1,974,204	32,122
合 計	1,875,819	1,522,761	3,398,580	55,846

利用者数等

	開館日数	入館者数(内学外入館者)	貸出冊数
中央図書館	352	573,672 (18,564)	125,072
医学部分館	365	91,993 (270)	7,893
部局図書室	130~258	330,710 (2,322)	71,321
合 計	—	966,864 (15,949)	206,675

電子図書館サービス

電子ジャーナル提供数	18,920誌
電子ジャーナル利用件数	5,103,276件
電子ブック提供数	49,561点
データベース検索数	955,344件
NAGOYA Repository登録件数	41,602件